

鳥取市における“リノベーションまちづくり”の実践

鳥取県建築士会

平成26年、鳥取県鳥取市において中心市街地に存する遊休化した建物・場所の活用を通じたまちづくり活動をスタートさせ、3年超が経過しました。

空き家や空き店舗を“地域の資源”と捉え、既存の資源と合わせて活用し、楽しみながら新たなコンテンツを生み出すことで街の活性化を図るこの取組み。

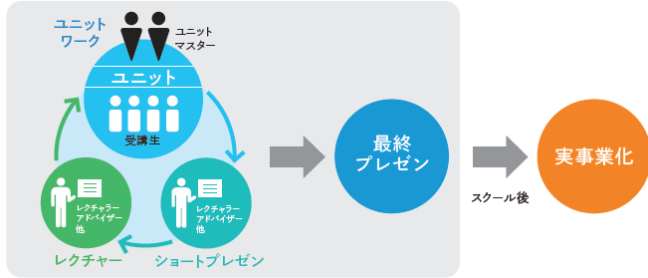
その過程では、いくつかの再生事例とともに、様々な年代、職種を越えた繋がりができ、街への愛着や責任感などを醸成する機運ができ、我々建築士も街とともに成長してきました。

官民、様々な職業を越えて新しいコンテンツをつくる

活動の核となったのは、北九州で生まれたリノベーションスクールという仕組み。街に実在する遊休不動産の活用を通じ都市再生手法を学び、実践する場です。

県内外から集まった受講生と国内で先駆的な取り組みを行っている講師が一丸となって、“いま、街に何が**必要か**”を考え抜き、実現化を進めます。

目標は、建物単体の再生ではなく、あくまでそのエリアの価値を高めること。**机上の空論ではなく**、実際に稼ぎ、持続し、未来に繋がる提案を作り上げます。



みんなで作る、みんなを楽しむ

リノベーションスクールは全国に波及しつつある仕組みですが、実事業化に至るプロセスが**鳥取オリジナル**の部分。ワークショップで様々な街の人を巻き込み、楽しみながら場づくりをしています。

ワークショップ後は、“**空き家バー**”が開店。空き家にひと晩だけ灯りをともしてみんなでその場所の話をします。近所の方も自然と集まります。



まちが動き出し、未来をつくっていく



鳥取家守舎



リノベーションまちづくりの動きから生まれた民間まちづくり会社。不動産オーナーとプレイヤーのあいだを取り持つ欠かせない存在です。

○Book cafe ホンバコ



8年間空き家だった元喫茶店をブックカフェへリノベーション。24歳で開業を決意した店長を鳥取家守舎らが後押し。みんなで作り上げた場所には、まちの色々な人が集う。

○まるにわ



駅前の老舗百貨店屋上。夏季のビアガーデンにしか使われなくなった場所をみんなの広場に。

○ミドリビ



元雀荘をまちに開く賃貸住宅へ。大家さんとまちの新たな関係性が生まれた。